

・・・・・・・・・・・・・・・・

自己内テーマを語る

ブックトーク学習

― 音声言語主体として自己を育てる

●兵庫県立明石北高等学校教諭

高田真理子

(たかた まりこ)

1 はじめに

小論文入試の隆盛ともあいまって、「国語表現」は科目としての地位を確保し得た感がある。ただ、それ以外の科目が「読むこと」に偏りがちであるのと同様に、「国語表現」も「書くこと」――すなわち「文字言語による表現」に偏りがちなのではないだろうか。

一方で、私の前にいる現代の高校生たちは、自己（の考えや思い）を肉声で語ることに強い抵抗を示す。逃避しているとすら思えてくるほどである（この時、「現代の」と「高校生」のどちらにより力点を置いて捉えるべきなのは、難しい問題であるが…）。では、私は、彼らのそうした状況を嘆くだけでなく、国語科の授業にお

いて語るべきことを語らせる機会を設けていたか、その指導をしていたかというところ――、否と言わざるを得ない。こうした認識と反省に立ち、高校生を、語る（聞く）べき時に／語る（聞く）べき内容を／ふさわしい方法で話す（聞く）ことのできる（音声言語主体）として育てるべく、「話すこと・聞くこと」の学びを中心に据えて、二〇〇二年度の「国語表現」（三年文系選択科目・二単位・受講者25名）を展開した。

2 実践の概要

本実践「自己内テーマを語るブックトーク学習」（12時間）は、独話形態での「話す」の集大成として、二期前半に実施した。これまでに、

- ・「60秒で友人紹介」（4時間）
- ・「パブリック・スピーキング基礎講座」（4時間）
- ・「3分間スピーチ」私の大切な〇〇」（9時間）

の三単元を踏まえている。授業の実際を、次に簡単に示す。

		I		II					III											
		1	オリエンテーション & 教師の実演	2	ブックトークの個人テーマ設定	3	書籍探索 & 読書カードの作成	4	本の選定 & ブックトーク・メモの作成	5	第1次リハーサル & 相互助言	6	ブックトーク・メモの推敲	7	ブックトーク原稿の執筆	8	第2次リハーサル & 相互助言	9	ブックトーク本番 & 相互評価	
	活動内容																			時間
		1/2		1/2		2		3		1		1		1		1		2		

3 生徒によるブックトークの実際

ブックトーク本番（第3次）は、他のクラスに向出で行った。これは、「身内相手ではない」という緊張感が（聞き手意識）を一層高めること、技能面においても表現効果という点まで意識させることをねらいとしたものである。

では、教師・生徒ともに評価の高かった生徒のブックトークを紹介する（紙幅の都合により抜粋）。なお、参考までに、他の受講生たちのブックトーク一覧を36ページに付す。

女子生徒Aのブックトーク「生きていくということ」

今から（生きていくということ）をテーマに三冊の本を紹介します。「生きていく」と聞いて、あなたはどんな姿を、またどんな生き方を思い描きますか。今回のテーマ（生きていくということ）の「生きていく」とは、生物的に「生きる」ということではなく、前向きに一生懸命生きる姿が中心となります。

① 『まだ17歳だけど、人生って面白いと思う』岩淵大起著（ポプラ社）

*著者のことばを一部朗読した。

② 『カラフル』森 絵都著（理論社）

③ 『The Blue Day Book』

ブラッドリー・トレバー・グリーブ著（竹書房）

これまで（生きていくということ）について三冊の本を紹介しましたが、どうでしたか。生きていくということとは、なかなか難しいことだと思います。ですが、一冊目で紹介した大起くんのようにプラス思考で何事にも一生懸命立ち向かえば、困難に当たっても、きっと楽しく生きていけるのではないのでしょうか。また、生きていくことにおいて、基本的に人と人との関わり合いは避けて通れないものです。人とうまく付き合っていくのはとて

も難しいことだし、一度できてしまった溝はなかなか埋まるものではありません。しかし、自分の気持ち次第で変えられることができるということを、この二冊目で紹介した『カラフル』には書かれています。そして、生きていけば、誰でもブルーな日というのがあります。そんな日には、この三冊目で紹介した『The Blue Day Book』を読んでみてはどうでしょうか。活字が苦手な人でも気軽に読めるのが、この本の魅力の一つです。

この三冊の中で、気に入った本はありましたか。少しでも興味のある人は、どうぞ一度手にとってみて下さい。きつと私のように、「何か」が得られると思います。ありがとうございます。(所要7分28秒)

【参考・本の選定理由】

一冊目	今回聞かせる人が同じ歳の子なので、同じ年だけしか生きていないのに、この人はこんなに苦労して、いろいろ考えて、それでも前向きに、人生が楽しいと思えるほど一生ケンメイ生きている姿を知ってほしい。そして自分もそんな風に生きようと思わせたいから。
	一度生きることをやめてしまった心が再び生き、今度は傷つき、苦しみながらも、次第に周囲の人

二冊目	とのつながりを深め、強いものにしていく所が、誰にも大切で生きて行く上で欠かせないものが暖く書かれているから。
三冊目	物語の中で間接的に感じとることも良いが、この本は読書に直接言葉を投げかけ、心をなごませてくれる。 どう生きるべきか思い悩んだ時、これを読むと生きて行く活力源になりかわるような気にさせる本だから。

生徒Aは、音声表現技術もかなりのレベルにあり、聞かせるブックトークであった。

もう一人、音声技術的には突出しているとはいえないが聞き手の視覚にも訴えて(見せるブックトーク)をした生徒B(女子)も、高い支持を得た。

女子生徒Bのブックトーク「ことば」

- ① 『もうちょっとで話し上手になれる』有村伊都子著 (明日香出版社)
*話し上手になるためのポイント三点を紙に書いてきて、順次黒板に貼っていった。

- ② 『14歳 いらぬ子』ヨヅキ著 (ポプラ社)

*詩一編を書き写した模造紙を黒板に貼ってから、

その詩を朗読した。

③『手話でボランティア』こどもくらぶ編著(岩崎書店)

*手話で自己紹介(氏名や趣味など)を上演してみせた。
(所要7分38秒)

4 学習の成果と課題

第4次で記入させた振り返りシートをもとに、学びの成果について述べる。

まず、学習の自己達成度の平均は3・5(満点5)であった。他者への評価は甘くても自分には厳しい傾向のある高校生としては、まずは自己の学びを肯定的に受けとめっていると判断してよからう。次に、自由記述から、先の生徒Aが自己の学びをどのように捉えているかを見る。

まず、「聞き手をひきつけるテーマとはなにか?」を考えるのが難しかった。このテーマを決めた時、本を紹介するだけでなく、このテーマの「生きていくということ」が聞き手にとってもっとさらに楽しくなるような、前向きに、積極的になれるようなトピックをしていかなければならないと思い、自分なり

にがんばりました。テーマにそって、しかも自分に衝撃が走るくらいの本を探すのはとても苦勞しました。

次に、文章の組み立てですが、聞き手に一番よく伝わり、あきることなく、共感を誘い、本に興味を持たせるにはどうしたらよいのか?——一番の課題でした。これには〈一文一情報〉がとても役立ちました。

でも、私は準備も大切だと思いますが、やはり、人間対人間となった時、どう自分を表現するかが最も大切なんだと思います。言葉は生きものです。同じ文でも自分の声のトーン、張り、表情、しぐさなどによってずいぶん変わります。今回のブックトーク学習で私は「相手に伝えようとする気持ち」がどれだけ大切か学ぶことができ、とても有意義なものになりました。

他の受講生24名も、「自己達成感・自己肯定感」を素直に表明し、「伝えることの難しさや大切さ」「準備(＝内容をしっかり持つこと)の大切さ」「音声言語活動(話す・聞く)への意欲の高まり」について改めて言及している。先の生徒Aの記述に顕著なように、他の生徒

の記述内容も「聞き手意識の高まり」「言語主体としての自覚と責任の高まり」が十分うかがえるものであった（加えて「読書活動そのものへの興味関心の高まり」や「テーマや本についての理解・認識の深まり」についても述べるなど認識の広がりもうかがえる）。

課題も明らかになった。主なもの三点について述べる。

その一は、プレゼンテーションの域に達したブックトークを行った者から、満身にアイコンタクトもとれず原稿の棒読み状態だった者まで、技能面での到達度・習熟度に大きな個人差が生じた点である。これまでの学習で、音声表現技術についての知識や意識は一定レベルまで高まっていると思われるが、基本的技能については全員が習得できているわけではない実態が明らかとなった。基本的なトレーニングも実施していく必要があることを実感した。

その二は、リハールスのあり方の問題である。その一とも関わる問題であるが、内容・技能の両面のレベルアップを目指してリハールスを設定しながら、十分にその機能を果たしていたとは言えない。今後、より実効のあるリハールスのあり方を検討する必要がある。

その三は、その二とも関わってくるが、生徒の評価力・助言力をいかに向上させるかという問題である。リ

ハールスを真に実りあるものとするためには、生徒相互の評価力・助言力の向上が欠かせない。評価のポイントには前もって提示してはいたが、単に提示するだけに終わらせず、評価すべきポイントを的確に聞きとり、その結果を分かりやすく相手に伝えることができるよう「聞く力」「話す力」を事前に育てる必要があることを痛感した。

5 まとめ

課題も多く残ったが、彼らが表現主体であることを、教師も生徒自身も実感できた実践であった。生徒たちは、ブックトーク学習に至るまでの一連の学習を通して、「自分」とは異なる「他者」と「ことば」で伝え合うことの難しさを痛感しつつも、話し手（聞き手）としての誠実さを土台として自らの言語能力を磨いていかなければならないことを、そして、よい話し手たらんとすることが自己内部により聞き手を育て、よい聞き手たらんとすることが誠実な話し手を育てるということを身をもって学んでくれたように思う。克服すべき課題は多いが、今後、高校生を主体的な言語主体として育てる「国語表現」を実践していきたいと思う。

平成14年度 国語表現A (2学期前半) ブックトーク一覧表

氏名(評価)	テーマ	本①	本②	本③	所要時間
女子A (B)	戦いの中の友情	J.R.R. トルースキン 『指輪物語1 第一部 旅の仲間(上)』(評論社)	提旗二郎 『幻影水滸伝 ソウルイーター(上)』(メディアアークス)	高見広春 『バトルロワイヤル』	6分47秒
女子D (B)	友情	ガブリエル・パンサン 『アンジュール』(BL出版)	ジョン・バーニンガム 『アルド』(ポルプ出版)	矢沢あい 『ZANA』(集英社)	4分01秒
女子F (A)	いのち	吉原幸子 『吉原幸子詩集』(思潮社)	えなりかずき 『えなりかずきのしつかりしろー』(ラックマン社)	北風ももこ・井上敏明 『ひきこもりからの旅立ち』(朱鷺書房)	7分58秒
女子H (AA)	ことば	有村伊都子 『もつとつとで話上手になれる』(明日香出版社)	ヨツキ 『14歳 いらないう子』(ポプラ社)	貞広邦彦『手話指導』(こどもくらぶ編著) 『手話でポランティア』(岩崎書店)	7分38秒
女子I (AA)	気持ち	レイフ・クリスチャンソン 『しあわせ』(岩崎書店)	奈良美智 『深い深い水たまり』(角川書店)	レイフ・クリスチャンソン 『ともだち』(岩崎書店)	7分37秒
女子J (A)	コトバ	菊田まりこ 『きみのためにできるコト』(学習研究社)	三田誠広 『いちご同盟』(河出書房新社)	B.A. キプファー『著』向井万起男・向井千秋『訳] 『4001の願い』(文藝春秋)	5分19秒
男子a (B)	『至きという目的について』	松本人志 『「松本」の「遺書」』(朝日新聞社)	松本人志 『松本坊主』(ロッキング・オン)	北野 武 『半生』	7分47秒
男子b (B)	好奇心	シドニー・シエルゲン 『真夜中は別の顔』(アカデミー出版)	J.K.ローリング 『ハリー・ポッターと賢者の石』(静山社)	シドニー・シエルゲン 『ゲームの達人』(アカデミー出版)	6分00秒
男子d (A)	信念	大平光代 『だからあなたも生き抜いて』(講談社)	黒乃菜々絵 『新撰異聞 Peace Maker』(エニックス)	大塚勇三『再話』赤羽末吉『画] 『スーホの白い馬』(福音館書店)	8分35秒
男子e (B)	信頼	太宰治 『走れメロス』	宮澤賢治 『注文の多い料理店』	井上雅彦 『バガボンド』(集英社)	6分25秒
男子f (A)	いのち	山崎章郎 『霧まじりの身らくと生きたい』(三海堂)	ホリー・ケラー『作』・絵 谷口由美子『訳] 『さよならマックス』(佑学社)	梅原 猛・河合隼雄・松井孝典 『いま「いのち」を考える』(岩波書店)	4分58秒
女子K (AA)	生きていくということ	岩淵大起 『まじろだげど 人生って面白いと思う』(ポプラ社)	森 絵都 『カラフル』(理論社)	ブラッドリー・トレバー・グリーヴ 『The Blue Day Book』(竹書房)	7分28秒
女子L (A)	愛は幸せ	山口ゆめとか 『すずめのかっぱ』(武蔵野書院)	沖 守弘 『マザー・テレサ あふれる愛』(講談社)	関 朝之 『救われた団地犬ダン』(ハート出版)	7分20秒
女子N (A)	ありがたさ	池田香代子 『世界がもし100人の村だったら』(マガジンハウス)	佐藤律子編 『空への手紙』(ポプラ社)	まじろ・みちお 『くまさん』(童話社)	6分02秒
女子O (B)	幸せということ	『ピストロスマップ 完全レシビ』(扶桑社)	手塚 治 『ブラック・ジャック』(秋田書店)	サン・デグジュベリ『作』内藤 濯『訳] 『星の王子さま』(岩波書店)	7分20秒